

普及情報

府県を超えた広域組織で伝統の『北摂栗』の振興

1 はじめに

北摂地方は千年以上の伝統を持つ栗産地（461ha）であり、全国的に高い評価を得ている『丹波栗』の代表的品種「銀寄」が誕生した地域である。しかし、『北摂栗』の知名度、評価は『丹波栗』と比較して低く、その栽培面積は最近20年間で3割近く減少している。これに対して地元では、歴史ある栗産地を再度復活したいとの願いがあり、『北摂栗』の栽培振興に取り組み始めている。

2 『北摂栗』の問題点

『北摂栗』栽培上の問題点は高齢化に伴う栽培管理不足、果実品質低下、そして収益減少による栽培意欲減退という悪循環である。栗樹が大木化し、管理ができなくなり、収量、品質がさらに低下している園地が多い。このため、カットバックなどによる低樹高化やナギナタガヤ草生栽培導入など、作業を省力化した上で、せん定、防除などをしっかり実行することにより高品質果実を生産し、評価の向上を図ることが必要となっている。

3 『北摂栗』振興のための組織作り

北摂地方は兵庫県と大阪府にまたがっている。『北摂栗』を振興していく上では、北摂地方全体が手を携えて取り組むことがより効果的である。このため、宝塚普及センターが呼びかけ、両府県の研究員、普及員などが連携し、「北摂栗栽培研究会」を立ち上げ、振興方策を検討していくこととした。

第一に研究会では、生産者が『北摂栗』について十分に理解した上で、生産に取り組むことが大切だと考えた。そこで、北摂地方の栗栽培園地地図を作るとともに、『北摂栗』に関する歴史等を取りまとめた『北摂の栗』の冊子を作成した。

この冊子を生産者や関係機関に配布することによ

り、『北摂栗』の歴史を再認識してもらい、今後の栽培管理に誇りを持って取り組むように促している。最近では栽培講習会への参加者が増加し、「管理に力を入れたい」との声が聞かれるようになってきた。

4 今後の展開

北摂各市町の栗栽培者間の交流は乏しい。「北摂栗栽培研究会」は技術者間の交流だが、今後はこの輪を広げ、生産者を含めた広域組織とし、連携を深めたい。兵庫県ではせん定等の栽培技術、大阪府では栗をテーマにした道の駅での直売などの特徴があり、互いに学ぶべき所がある。

兵庫県側では今年度、宝塚市、川西市、猪名川町の栗出荷を一本化し、従来、開催されていなかった3市町での品評会や栽培講習会を実施する。これを第一段階として、今後、大阪府側も含んだ講習会に発展させ、互いの技術研さんにより、高品質果実生産を進め、『北摂栗』の評価を向上させていきたい。

武田 敏秀（宝塚普及センター）



栗の品質向上を目指してせん定講習会開催